



メディアで活躍する若手医師の取り組み
「若手の皆さん、恐れずにメディアで発信しよう」

丸の内の森
レディースクリニック
宋美玄

自己紹介

1976年 兵庫県生まれ

2001年 大阪大学医学部医学科卒業

その後大阪大学産婦人科入局

2007年 医局人事で川崎医科大学に赴任

2009年 ロンドンのFetal Medicine Foundationに留学

2011年 川崎医科大学大学院に進学

2012年 第一子出産

2015年 第二子出産

2017年 丸の内の森レディースクリニック開院

メディアに出るようになったきっかけ



「結果を出してこそプロですよね？」

妊娠出産には命に関わるリスク
があること
医療の不確実性
→非医療者との意識の乖離

2008年 「妊娠の心得11カ条」のブログがバズる
2010年 「女医が教える本当に気持ちのいいセックス」出版

その後各種メディアに出るようになり、内閣府の少子化タスクフォースのメンバーになったり、政治、行政、企業など他業種の相談役的な仕事をしています。

「きちんと知りたい妊娠の心得11カ条」

～妊婦の教育が、産婦人科医の負担軽減につながる

2009/05/30

21世紀医療フォーラム取材班シニアライター 森 裕

印刷

シェアする 0

B!ブックマーク 0

ツイート

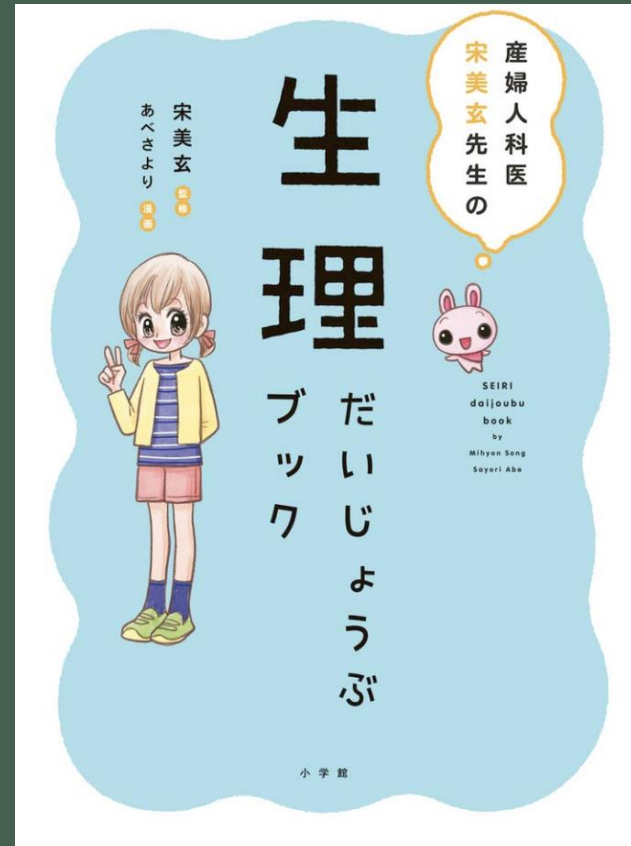
「セックスをしたら妊娠します」「この男の子供を産むためなら死んでもいい！と思うような男の子供しか妊娠してはいけません」……など、タイトルだけ読むと、当たり前のことばかり並べた「きちんと知りたい妊娠の心得11カ条」（表1）が話題を呼んでいる。

書いたのは、川崎医科大学産婦人科非常勤講師・宋美玄氏。今年で産婦人科医になって9年目の女性医師だ。学生時代には、21世紀医療フォーラムの代表世話人である大阪大学副学長・門田守氏に薫陶を受けたという。

「きちんと知りたい妊娠11カ条」の体裁は、ご覧のとおり、関西風のサービス精神にあふれているが、内容は表題通り、妊婦の素朴な疑問に女性の視点から適切に答える形になっている。今年3月8日に東京で行われた同氏の講演会には、一般の人とともに産婦人科などの医療関係者も



川崎医科大学産婦人科 非常勤講師 宋美玄 氏

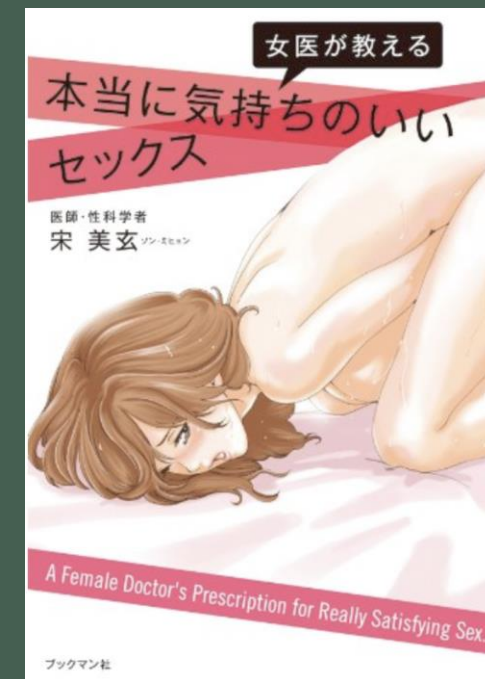


医師がメディアに出るルート

タレント、グラビア、小説家、音楽家、漫画家など、医師以外のジャンルで有名になっている方も多数おられます

「医療の専門家」として無名医師がメディアに出るきっかけは、何かでメディアの目に留まる必要があります

逆に、医師の世界で別に偉くなくても、研修医でも、開業医でも、発信が「受け」たらメディアに出る可能性のある時代です



デジタルネイティブ世代のドクターたち

医学生だけでなく、医学部志望の高校生の頃からSNSでオープンに発信する若者も多数

SNSで医療情報、論文解説、イラスト、漫画の発信でじわじわフォロワーをつけていく→著書出版→テレビなどメディア

一般的・普遍的な医療情報よりも時事ネタの方がバズりやすい

一般的・普遍的な医療情報はネタを枯渇させないのが大変

医療相談を行っているドクターも多いです

それぞれのSNSの特徴（私見です）

- Twitter 拡散力は強いがノイズが一番多い
メディア（新聞社など）の人にフォローされると取材が来る
フォロワーが多いと集患にも
- Instagram フォロワーが多くななくてもハッシュタグで検索する人にリーチ
時事ネタよりも一般的な医学情報向き
- TikTok TwitterやInstagramではリーチできない人に見てもらえる
- Facebook 一般向けより同業者との交流向け 重要な情報が得られる
- YouTube, note, blog やってないですが労力をかければ効果は大きい
- Voicy 拡散力はない けど炎上もない

**「バズる」「一時的に超有名になる」と、
「ずっとなんとなく目立つ」はコツが異なる**

匿名か？実名か？

初めから実名で発信するメリットはあまりありません

実名で発信する場合、所属組織や医療機関に確認が必要です

途中から実名に切り替える人も多いです

特定を趣味としている人たちもいるので気をつけてください

実名の場合、患者さんのエピソードを載せるのは難しくなりますが、匿名だからいいというものではないので時代にあったコンプライアンスを遵守しましょう

匿名でも悪口や誹謗中傷などはやめましょう

コロナ禍においては・・・ハイリスクハイリターン？

コロナ禍では多数のドクターがSNSやテレビ出演をきっかけに有名になりました。しかし、

- ・ 科学的に妥当なことが理解を得られるとは限らない
- ・ 政治家には失策を医療体制の不備のせいにされる
- ・ 年月が経った後、生存者バイアスで「あの時〇〇させられたのは不要だった」と言われる
- ・ 中には完全に非科学的な世界に行ってしまった人もいる

そして、ほぼ例外なく嫌がらせや脅迫行為、ストーカーに遭っているそうです。

ドクターと名乗って発信するにあたり

- 時代遅れになっている可能性のある価値観、ジェンダー、セクシャリティに関すること、は十分にアップデートしてからの発信が無難です
- 金銭感覚に関することも炎上リスクがあります
- 医学的に正しい情報、ガイドラインの解説、保険診療や制度の説明には需要があり、炎上リスクが低いです
- 誰もが納得する価値観がない分野も存在します（産婦人科の分野で言うと母乳育児・出生前検査、など）あえて触れないことも一つの方法ですが、専門性の高い分野で強い信念のある場合は言及するのもパワーになります
- SRHR（性と生殖の健康と権利）、からだの自己決定権、患者さんの選択肢が増えること、については積極的に発言すると信頼にもつながるし、医療業界全体への信頼性が増すと思います
- 人気になって、ファンや信者に囲まれても、先鋭化しないように注意が必要です

恐れずに発信を！

若手医師の視点による発信は非医療従事者にとっても貴重！

受け手のことを考えながら発信することは臨床にとってもプラス！

発信するために常にアップデートするクセもつく！

交友関係が同じ地域の医者や医療関係者に偏りがちだと思いますが、発信することで他の地域の同業者との交流が増え、メディアに出るといろいろな業種の人たちと知り合えます。視野が広がる！

まずはインフルエンサー医師をフォローするところから始めてみよう！